

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー
2007.7.1
No.36

先月号で「ノアの箱舟」の出来事が真実であるということを書きました。実話が単なるおとぎ話かということについてこだわるには理由があります。

一つめは、「裁き・滅び」についてです。聖書には、かつて起こった「洪水による全世界的な滅び」と将来起こるであろう「火による全世界的な滅び」が比較されつつ語られています。もし、世界的規模の大洪水が嘘ならば、火による滅びについても考慮することはないでしょう。でも本当なら…。

二つめは、「救い」についてです。最初の滅びに対しては箱舟という救いが用意されていました。箱舟に入るだけで完全な救いを得ることができたのです。火による滅びに対してはイエス・キリストの救いが用意されていると聖書は語ります。奇想天外な箱舟の話が事実だとすれば、人間の想像をはるかに超えたキリストの救いも考える必要があるのではないのでしょうか。

聖書から見ると現代は「終わりの時代」です。この時代の特徴は、「過去の裁き」も「将来の裁き」もないとあざけられるということとで、次のように聖書は記しています。

その2



うそ?ほんと?ノアの箱舟

「まず第一に、次のことを知っておきなさい。終わりの日に、あざける者どもがやって来てあざけり、自分たちの欲望に従って生活し、次のように言うでしょう。『キリストの来臨(キリストが裁き主としてこの地上にもう一度来ること)の約束はどこにあるのか。先祖たちが眠った時からこのかた、何事も創造の初めからのままではないか。』こう言い張る彼らは、次のことを見落としています。すなわち、…地は神のことばによって水から出て、水によって成ったのであって、当時の世界は、その水により、洪水におおわれて滅びました。しかし、今の天と地は、同じみことばによって、火に焼かれるためにとつておかれ、不敬虔な者どものさばきと滅びとの日まで、保たれているのです。」

(ペテロ三章四〜七節)

確かにこれまでは大洪水の時代以来、全世界的な滅びはありませんでした。これに遭遇せずこの地上の生涯を終えた人も多かったのです。しかし、聖書はこの地上の滅びを免れたとしても、人間は死後聖なる神の前に立つときが来ると語ります。そして、この地上でなしたあらゆる不義について公平な裁きを受けます。残念ながら神から離れてしまった人間は罪の程度は違ってもすべて有罪となると語られています。すなわち、たとえ全世界的な滅びが起こるときにこの地上にいなかつても神の裁きをいずれば受けることになるのです。その意味では、すべての人が「滅び」に直面し、「救い」を必要としていると言つてよいでしょう。

「創造主などはいない。」「神の裁きなどない。」と多くの人は考えています。すべては偶然によって、気が遠くなるような長い時間をかけ、大激変もなく徐々に進化したと考えます。死後の世界、死後の裁きなどは宗教家やオカルト信奉者たちだけが考えればよいと思っています。

そういう人間に神は聖書を通して語っておられます。神が「滅びや裁き」の警告を与えているのは裁きたいからではなく、救いたいからです。病気の原因を早く探り、適切な処置を施したいと願う医者のように、人間の悲惨さの原因やその結末を神は宣告し、治療する方法を提示しているのです。

聖書が語る救いとは、たとえると「キリストという箱舟に入る」ということです。箱舟の外では激的な裁きが進行していました。箱舟の回りは打ち付ける波や大木などで痛めつけられたでしょう。それはあたかも私たちが受ける罪の刑罰を、イエスが十字架の上で代わりに引き受けてくださったのと似ています。箱の中にいるノアの家族たちは無事だったように、イエスを信じて「箱舟に入った」と認められた人々には裁きからの救いが与えられるのです。突拍子もない話のように思われるかもしれませんが、これが神の方法でした。

余談ですが、箱舟によってノアの家族八人だけが救われたと聖書は語ります。大きなふねを表す漢字は、舟の右に八と口と書きます。古来、口とは人を表し、すなわち舟の右に八人と書くのです。この漢字を作った人は、ノアの話を知っていたというものが多くの人の考えです。

(K)



自転車でGO!

E

いつもはJ.Cホームチャースクールに行く時は、地下鉄を利用してきます。でも今回は自転車で行きました。なぜなら運動にもなるし、電車賃もつくからです。これぞ一石二鳥です。家から天満橋まで一時間ぐらいかかります。本当は四十五分ぐらいでつくはずなのに、僕たちは六人なので時間がかかります。信号を三人がわたったとしても、後の三人はわたれなかつたりします。と中でタオルが飛んでいたりペットボトルが落ちたりたいへんなこともありました。天満橋の近くになると人が多くなってきました。しかも坂が多くなってきました。ぼくは登れましたがお母さんは登れませんでした。だから自転車をおりておしていきました。また下り坂はブレーキがきかないほどでこわかったです。みんなで助け合いながらのサイクリングは最高です。次回もちょうせんしようと思っっています。

チア・コンベンションを通して思ったこと

M

我が家の恒例行事となったチア・コンベンションに参加してきました。場所は自然に恵まれた関西聖書学院(夜を外にでると、町の光が宝石のように見えてとてもきれいでした)。今年の大阪でのコンベンションの参加人数は四百人もいるそうで、ホールも多くの人でこったがえしていました。でもこんなにも関西地方でホーム&チャースクワラーが増えたんだ、こんなにも仲間がいるんだなと思うと嬉しかったです。

今年のコンベンションでは、僕の家でのホームスクールを取材したビデオが放映されました。スクリーンで自分の顔が映されているところを想像して、始まる前から恥ずかしくなっていました。だからビデオが終わった時には、その日一日が終わったかのように、一気に疲れが襲ってきました自分がインタビュウされているところなども見えていられませんでした。

また今回僕は「リーダー(Leader's in Training)」として

六月
「こんにちはしました!」行事報告

一〜二日 チア・コンベンション

(関西聖書学院)

九日 阿倍野集会土曜学校

(ホットドッグを作るう!)

十一日 ミクタムコンサート

(クリスチャンセンター)

十二日 J.Cホームチャースクール

三十日 天王寺動物園



参加しました。いろいろとスタッフの手伝いをしたり、小さい子供といっしょに遊んであげたりしました。小さい子供たちの面倒をみるのは楽しいけれども、いろいろとやることも多くて、いつもスタッフのみなさんはこんなにしているんだと思い、驚きました。



そして友達が増えたなあと実感しました。ホームスクールになつてから、学校に行っていた時のように友達といっしょにいるわけではないので、自分は楽しんでるのに「だいたいようぶ?」「本当に楽しい?」など周りの人から心配されていました。でも年を重ねるごとに、神様はいろんな友達を与えてくれました。今になって考えられると学校に行っていたころは北海道や四国に友達ができるなんて考えてもみませんでした。また学校に行っていた時のように、周りに合わせることなどにはわすらわされず、友達の前での自分と家での自分を使い分けなくてもいい。そんな友達を与えてくれた神様に感謝しました。

今までで一番楽しかった上には、いろんなことを教えられた充実した二日間でした。

編集後記

コンベンションが終わって、ふもとの駅まで車で送ってもらうことを条件に、撤収のお手伝いをしました。主にチアの販売書籍の段ボール詰めです。どこでも舞台裏は重労働で、普段の労苦を思い頭が下がる思いです。